

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

学校便り

第366号
平成29年2月1日

練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木隆志

わかばの魂 百まで

校長 鈴木隆志

本校わかば学級は、平成18年4月に開級しました。児童数18名、3学級編制での開級でした。その後児童数は増え続け、平成23年度には児童数42名となり、当時としては都内で最も児童数の多い特別支援学級となりました。昨年度は、開級10年目のお祝いとして、全校児童みんなで仲良く楽しく過ごす「光っ子まつり集会」を実施しました。昨年度までのわかば学級卒業生は57名を数えます。開級から11年目の今年度は、28名の子供たちが通っています。

わかば学級の入り口に、『わかばの魂 百まで』の言葉が掲げられています。開級以来11年間、熱い思いを綿々につないできました。変わらぬ思いは、「スモールステップで進める特別支援教育」です。一人一人の発達の状況を見極めた上で、スモールステップによる達成目標及び課題を設定し、個に応じた支援を続けています。支援には二つの側面があり、一つは「子供が分かるための支援」、もう一つは「子供が安心・安定するための支援」です。例えば、手本や図を見ることで、視覚的な面から理解を深めることは、「子供が分かるための支援」であり、一単位時間の授業の見通しをもって活動できるようにすることは、「子供が安心・安定するための支援」です。

本校では、昨年度から「授業のユニバーサルデザイン化」に焦点をあてた研究を進めてきました。「授業のユニバーサルデザイン(UD)」とは、どの子も、学ぶ喜び、分かる楽しさを感じ、確かな学力が身に付いていく授業づくりのことです。「授業のユニバーサルデザイン」を進めるためには、学校環境のUD化、教室環境のUD化、指導方法のUD化を三位一体で考えていく必要があります。また、平成26年度から、「包容」(広い心で相手を包み込み受け入れること)をキーワードとした学校経営に取り組んできましたが、本校の研究は、包容の思いを具現化していくための研究であると言えます。「授業のユニバーサルデザイン化」も「包容」も、教育のシステムの問題ではありません。指導のテクニックの問題でもありません。「思い」や「志」といった意識の問題なのです。ですから「授業のユニバーサルデザイン」は、そのこと自体が目的ではなく手段であると言えます。磨くべきことは、テクニックとしての包容力ではなく、マインドとしての包容心です。

2月10日(金)に、練馬区教育委員会・特別支援学級発表校として研究発表会をさせていただくこととなりました。明星学苑教育支援室長・明星大学客員教授 細水 保宏先生、明星大学発達支援研究センター研究員 京極 澄子先生を講師にお招きし、区内の幼稚園・小中学校教員だけでなく、学校関係者、地域の皆様にも御参会をいただき、本校が取り組んできた研究について、実践の成果をお伝えしていきたいと思っています。授業公開は、わかば学級のみで行いますが、研究は全校で取り組んできたものです。本校の研究が、光っ子一人一人の幸せにつながっていくことを願っています。